

1 主要な施策の成果の概要

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症について、複数回の感染拡大時期を経るなど、その収束が見通せない中で、日本国内も含めた世界各国において、感染症に伴う影響が続き、市でも、市民生活や地域経済における影響が続き、様々な局面で多くの困難に直面することとなりました。そうした中、市は、引き続き、調布市医師会をはじめ、調布市商工会など、関係機関との連携・協力の下、感染状況等を的確に捉えながら、「感染症拡大防止に向けた取組」、「市民生活及び子どもたちへの支援」、「地域経済への支援」の感染症対応の3つの柱により、市独自の対策を含む取組を機動的に実施しました。あわせて、新型コロナウイルスワクチンについては、調布市医師会や電気通信大学の多大なる御協力を得て、接種を希望される市民に対する迅速な対応を図りました。

このような状況において、市は、後期基本計画の3年次目として、引き続き、市民の安全・安心の確保と市民生活支援を市政の第一の責務としつつ、基本計画に位置付けた5つの重点プロジェクトを基軸に、「横断的連携による施策の推進」と「調布のまちの魅力発信」の2つのアクションの実践により、施策全体の効果的な推進に取り組みました。

「横断的連携による施策の推進」については、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実や子どもの貧困対策、子育て家庭の支援、困難を抱える子ども・若者支援のほか、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組や各種相談体制の強化、ソフト・ハードが一体となった魅力あるまちづくり、さらには、1年延期での開催となった東京2020大会に合わせた各種取組及び大会後のレガシー創出など、各分野を横断し、組織や施策の枠を越えて対応すべきテーマについて、情報共有や課題解決に向けた連携・調整を図りながら取り組みました。

「調布のまちの魅力発信」については、多様な主体と連携・協働する中で、利便性や快適性、自然環境、産業・観光など、調布のまちにおける多様な魅力の向上を図るとともに、動画やインターネット、ソーシャルメディアなどの活用や各種事業の実施を通じて、市内外への積極的な発信に努めました。

まちづくりの重点的な取組や諸施策の推進に当たっては、引き続き、市政経営の2つの基本的な考え方の下、行革プラン2019に位置付けた、市民参加と多様な主体との連携・協働の推進などの「参加と協働のまちづくり」や、簡素で効率的な組織体制づくり、事務事業の見直し・改善、限られた経営資源の最大限の活用、財政の健全性維持など、「持続可能な市政経営」に向けた取組を推進しました。

令和4年度は、現行基本計画の最終年度に当たることを踏まえ、基本計画に位置付けた施策・事業の着実な推進を図り、「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」の実現を目指して参ります。あわせて、市政を取り巻く社会情勢や様々な課題等を踏まえ、2030年代を見据えた中長期的な視点も持ちつつ、多様な市民参加手法を活用しながら、市民とともに、次期総合計画の策定に取り組んで参ります。